

【高等学校用】

令和3年度学校評価計画

達成度(評価)	
A	: 十分達成できている
B	: おおむね達成できている
C	: やや不十分である
D	: 不十分である

学校名	佐賀県立佐賀工業高等学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校教育目標を達成すべく、本年度の重点目標を定め、各評価項目について取り組んできたが、昨年同様「概ね達成できた」と考える。</li> <li>本年度も「家庭学習の定着」の項目ではC評価であった。工業技術者となるためには、自ら学ぶ姿勢を身につけさせることが大切でありことから、次年度以降も改めて取り組みを充実させたい。</li> <li>学科改編により6学科6クラス導入の初年度であった。移行期間の対応を円滑に実施して、将来の進路を見据えた具体的で興味・関心の高まる教育課程を編成し、工業教育の活性化を図る。</li> </ul>
2 学校教育目標	歴史に培われた伝統に学びながら、21世紀を担う平和で民主的な社会の形成者として、人間愛に満ちた心身共に健全で逞しい工業技術者を育成する。
3 本年度の重点目標	<p style="text-align: center;">〇“ものづくり”から“者(ひと)づくり”そして“未来(あす)づくり”</p> <p style="text-align: center;"> <span style="margin-right: 20px;">ア 深い生徒理解に基づく指導</span> <span style="margin-right: 20px;">イ 規律ある高校生活の定着</span> <span>ウ ものづくり教育の推進</span> </p> <p style="text-align: center;"> <span style="margin-right: 20px;">エ 部活動の充実</span> <span style="margin-right: 20px;">オ 開かれた学校づくりの推進</span> </p>

4 重点取組内容・成果指標	5 最終評価				主な担当者		
(1)共通評価項目				最終評価			
評価項目	重点取組 取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)		実施結果	学校関係者評価 評価 意見や提言
●学力の向上	〇わかる授業の実践と学習意欲の向上に向けた学習指導の充実	〇授業アンケートにおいて丁寧でわかりやすい授業と感じている生徒95%以上を目指す。	・研究授業、公開授業を行い、職員相互の授業参観で良いところを取り入れ、わかりやすい授業を目指す。	A			教務部
	〇資格取得の推進 ・各科の重点資格と基礎資格の合格率の増加 ・ジュニアマイスターの取得者の増加	〇資格取得において75%以上の合格率を目指す。 ・ジュニアマイスター取得者は全校生徒の数のゴールドとシルバーで5%以上、ブロンズを含め70人以上の取得を目指す。	・担任や科と連携して資格取得者を増やす。 ・全員受験基礎資格の指導徹底と補習体制の強化を図る。	A			工業教育部
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	〇生徒の状況把握に努め長期欠席や断続欠席者をゼロにする。 〇心の教育に関する講話を学期に1回行う。	・生徒と会話を密にして、職員、家庭と連携を取り、早めの対応に努める。 ・生徒指導主事や教育相談担当から、式典の際、心の教育について講話を行う。	A			生徒指導部 教育相談部
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実(いじめの未然防止)	〇生徒一人一人が安心して学校生活を送ることができるようにする。 〇大人にSOSを出せるように、相談環境を整え、生徒の居場所を作る。	・定期的にいじめアンケートを実施し、結果をもとに関係機関との連携など、早めの対応に努める。 ・常時、生徒が相談できる環境作りを行う。	A			生徒指導部
	◎ふるさと佐賀への思いを醸成するための教育活動	◎「佐賀県に誇りや愛着を感じる・どちらかというと感じる」と回答した生徒80%以上を目指す。	・「佐賀語り」やDVD教材を活用し、佐賀県の良さを再発見させる。 ・外部講師を招聘し、郷土愛を育む講演を行う。	A			教務部
●健康・体づくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「毎日朝食を食べる」生徒85%以上を目指す。	・「保健だより」を発行して、健康面や栄養面の情報を提供する。 ・食に関するアンケートを実施して、食事の大切さ、食習慣などに意識を持たせる。	A			保健厚生部
	●「学校生活における安全に関する資質・能力の育成」 ・登下校中の交通安全 ・スマートフォン利用におけるモラルの向上	〇生徒の生活事故、交通事故を0(ゼロ)にする。 〇ネット/パトロール指導件数を0(ゼロ)にする。	・年1回の警察による交通講話の実施。生徒指導部による登下校指導を行う。 ・年1回の警察によるネットエチケット講話の実施。生徒指導主事による学期に1回の講話を行う。	A			生徒指導部
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在職等時間の上限を遵守する。 ・教職員の時間外在職等時間の年間平均を一昨年度より10%削減する。	・校務を見直し、業務の偏り不均衡を是正する。 ・部活動実施計画を確認し、部活動指導者を交代で指導に当たらせる。	A			教頭
	〇事務職員の学校運営への積極的参画と教員との連携促進	〇教育行政職員の専門性を活かし、経営的視点を持ちながら学校運営に積極的に参画する。	・教員との連携を密にし、情報共有を行い、学校の現状を把握して一つのチームとして学校運営に取り組む。	A			事務長
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				最終評価		学校関係者評価 評価 意見や提言	主な担当者
評価項目	重点取組 取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	実施結果		
〇進路実現	〇生徒・保護者の負託に応じた進路指導の充実	〇進路意識の高揚と職業観・勤労観の育成などキャリア教育の推進を図る。 ・就職試験の一次合格率を上げ、進路決定率の年内100%達成を目指す。	・進学補習等で基礎学力を向上させる。 ・面接指導、集団討議訓練を実施する。 ・企業訪問報告会を6月、3月に実施する。 ・SPI試験の対策に小テストを実施する。	A			
〇学びのトレーニングによる基礎学力の向上	〇「学びの時間」の充実と学習習慣の醸成	〇「学びの時間」小テストの各学年における正答率80%以上を目指す。	・学年や教科と連携した指導を徹底し、基礎学力の向上に努める。 ・毎朝継続して学習に取り組み、学習の習慣化を図る。	A		研究研修部	
●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育							
5 総合評価・次年度への展望							